# 類義語ミトオス・ミヌクの意味分析
## ―心はどこに隠れているのか―

鷲　見　幸　美

キーワード：ミトオス、ミヌク、類義語、捉え方、認知言語学

### 1　はじめに

本稿の目的の第一は、類義関係にあるミトオスとミヌクの意味について、その共通点と相違点を明らかにすることである。両語が類義関係にあることは、以下の（1）（2）のミトオスとミヌクが、文全体のおよその意味を変えることなく、入れ替え可能であることから明らかである。

（1）「約束を破るのは、犬猫に劣るものだよ。犬や猫は約束などしないから、破りようもない。人間よりかしこいようなものだ」／（だけど、大した約束でもないのに）／信夫は不満そうに口をとがらせた。／「信夫。守らなくてもいい約束なら、はじめからしないことだな」／信夫の心を見通すように貞行はいった。（『塩狩峠』100）

（2）「ええ、少し延ばしました」と私が答えた。／「おれの為にかい」と父が聞き返した。／私は一寸躊躇した。そうだと云えば、父の病気の重いのを裏書するようなものであった。私は父の神経を過敏にしたくなかった。然し父は私の心をよく見抜いているらしかった。（『こころ』222）

（1）の「心をミトオス」も（2）の「心をミヌク」も、およそ「相手の本当の気持ちが何であるかを認識する」ことを表す点で共通している。では、違いは何であろうか。

目的の第二は、二つの語の意味分析を通して、我々日本語話者が、「心」のような外形もなく捕らえどころのない抽象物を、いかにモノ化して捉えているかを考察することである。（1）（2）の「信夫」「私」は「心（＝自分の本当の気持ち）」を隠している。もともと外形のないもの、つまり、目に見えないものを「隠す」というのはどういうことなのだろうか。「心」は一体どこに隠れているのだろうか。

ミトオスは多義語[1)]であり、以下の（3）（4）のように、ミヌクにはない意味・用法を持つ。

（３）　私の立っているのは、半ば朽ちかけた、家の物干場だ。ここからは家の裏横手の露路を見通すことが出来る。（『檸檬』420）

（４）　この間取り組んできたテーマに「静岡県在野法曹史」研究があります。具体的には、静岡県内で大正から昭和にかけて活躍した弁護士・鈴木信雄に焦点を当て、彼を通して、静岡県地域における在野法曹の歴史を見通そうという試みです。（http://www.hss.shizuoka.ac.jp/law/staffs/hashimoto.html）

本稿では、このような場合は直接の記述の対象とはせず[2)] ミトオスとミヌクが入れ替え可能な場合、入れ替え可能なようでありながらどちらか一方しか言えない場合を考察し、両者の共通点と相違点を明らかにすることとする。

また、ミトオスとミヌクは、ともに視覚動詞（「ミル」）と使役移動動詞（「トオス」・「ヌク」）を構成要素とする複合動詞である。しかし、認知言語学のとる非還元主義の立場では、「合成表現の意味は、構成要素の意味によって動機づけられはするが、完全には決定されず、構成要素の意味の総和に還元できない側面を持つ。」（辻編 2002：79）と考える。本稿もこの立場に立ち、ミトオスとミヌクの「一語」としての意味を分析・記述する[3)]。

## ２　先行研究

### ２．１　ミトオスとミヌク：類義語辞典

「類義語の意味の相違」の記述を目指した辞典においても、両語の意味の相違が明確になっているとは言い難い。まず、１）『類義語辞典』（1972:379）の記述を取り上げる。

１）「みとおす」は、おもに未来を正しく推定することにいう。「日本の将来をみとおす」のように。しかし、「みぬく」などとおなじようにつかわれることもある。「相手の意図を～」のようなばあいには、どの動詞をつかってもよい[4)]。しかし、「みやぶる」「みすかす」は、相手がかくそうとしているものについてだけいうのに対し、「みとおす」「みぬく」は、「かくれた才能を～」のように、かならずしも、かくそうとしていないものについてもいうので、それだけ広い。

「隠そうとしているものにも、隠そうとしていないものについても言う」というミトオスとミヌクの共通点は示されているが、ミトスが主に「未来の推定」に使われるということの他は、「同じように使われる」とし、その相違点は明らかではない。

次に、２）『類義語使い分け辞典』（1998：659）、３）『類語大辞典』（2002：259, 260）では、両語の意味が以下のように記述されている。

2）ミトオス：「本心・作戦・先・経済の動向」など、全体を眺めたりデータに基づいて、隠されているもの・今はまだ見えてこないものを見抜く・予測すること。プラス・マイナスを問わない客観的評価なので、「うそ・正体・計略」など、マイナス評価の面しかないものには使えない。／ミヌク：「正体［うそ・偽物・変装・悪い癖・計略・たくらみ・人の心］を見抜く」など、隠されている・隠しているマイナス評価の真実・本当の性格などを、鋭い直感で知ること。

3）ミトオス：将来のことや表面に現れていないことなどを、今の状態や表面的な状況から判断する。「景気の先行きを～」「相手の魂胆を～」／ミヌク：隠されている物事の本質・真相、相手の考えなどを、表面に現れた情報だけから鋭い直観によって知る。「事件の内幕を～」「隠れた才能を～」「彼の真意はどうしても見抜けなかった」

いずれの辞典においても、ミトオスとミヌクの意味記述は類似していて、それぞれの特徴が明確にされておらず、（1）（2）の違いを説明できるものではない。第一に、『類義語使い分け辞典』のミトオスは、ミヌクを用いて記述されており、「隠されたものをミトオス」と「隠されたものをミヌク」は同義ということになる。第二に、いずれの辞典も、ミトオスを「予測する」「判断する」、ミヌクを「鋭い直感（直観）によって知る」とし、ミトオスがより高次の知的処理を表すことが窺えるとも言えるが、『類義語大辞典』は、「直感」ではなく「直観」としている上、「表面に現れた情報だけから」と判断の拠り所が示されていることから、この違いは明示的とは言えない。第三に、いかなる対象をとるのかが明確ではない。『類義語使い分け辞典』は、ミトオスは「マイナス評価の面しかないものには使えない」としているが、この記述には（5）のような反例が存在する。

（5）「中島みゆき」とはだれか。／彼女はいくつもの時代をめぐって、この近代という時代の終末にやってきた魔女である。彼女の言葉は心を貫く。彼女の歌は心を揺さぶる。彼女はおごった心を見通している。（http://homepage3.nifty.com/takaoudo/miyuki.htm54.）

「おごった心」は、明らかにマイナスの評価を伴う。対象がマイナス評価を伴うということは、ミトオスの本質的な特徴ではないように思われる。また、ミヌクについては、その対象を「隠されている・隠しているマイナス評価の真実・本当の性格など」としているが、以下の（6）のような例が説明できない。

（６）　TOEFL ライティングの問題は、授業で繰り返し言われつづけてきたように５つのタイプに大別できる。つまり、これら５つのタイプがどのような形式のものであるかを予め把握して試験に臨めば、実際の試験を受ける際、問われていることを早く・正確に見抜き、質の高い文章を書きやすくなる。
（http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/TOEFL/extra2/form.cgi?id=226）

「問題が問うていること」にマイナス評価があるとは考えられない。「本当の性格」とも言い難い。なぜこのような例にミヌクが使われるのだろうか。一方、『類義語大辞典』は、ミトオスの対象を「将来のことや表面に現れていないことなど」、ミヌクの対象を「隠されている物事の本質・真相、相手の考えなど」と記述しているが、そもそも「表面に現れていない」ことと「隠されている」ことは区別されているのだろうか。ミヌクについては「表面に現れた情報だけから鋭い直感によって知る」とも記述されていることから、その点は不明である。「表面に現れていないこと」と「隠れていること／隠されていること」とは、どのような関係にあるのだろうか。

### ２．１．２　ミヌク：清野（1990）

清野（1990）はミヌクとミスカスの類義語分析を行い、ミヌクの意味を以下のように記述している。

４）＜表面からはわからない＞＜事実、関係などを＞＜鋭い観察、思考によって＞＜知る＞

その分析プロセスは参考となる点も多いが、この記述は以下の（７）（８）のミトオスにも当てはまると考えられ、両語の意味を弁別できる記述ではない。

（７）　漢方医ならともかく、西洋医では頼圀の手の及ぶところではない。といって西洋医になるのを断念させる理由もなかった。たしかに西洋医は時流に適っている。その辺りのことは皇漢医である頼圀にも見通せた。（『花埋み』266）
（８）「そやかて、老師は僕のしたことやと信じていやはるやろか」／「さあ」と忽ち鶴川の考えは窮した。／「ほかの人はどないに蔭口をきいても、老師だけは黙って見とおしてて下さるよって、安心しとったらええのや。僕はそう思うとる」（『金閣寺』178）

「隠れている／隠されている」ではなく、「表面からはわからない」と記述していること

に注目すれば、この点で『類義語使い分け辞典』、『類義語大辞典』とは異なり、前節で掲げた疑問は解決されない。また、「鋭い観察、思考によって」という記述についても、両辞典と相違する。

### ２．１．３　ミトオス：鷲見（編集中）

鷲見（編集中）は、多義語ミトオスの意味構造を分析し、プロトタイプ的意味を中心に、三つの拡張義、そして抽象度・単位としての定着度の異なる五つのスキーマがネットワークを形成していることを示している[5)]。ミヌクとの異同が直接問題になる点については、ミトオスの意味を以下のように記述している。

> ５）第二義：＜物事の判断時の状態やそれを取り巻く状況を基に＞＜物事の将来の成り行きを＞＜一続きに＞＜判断する＞／第三義：＜表面に表れた[6)]物事を基に＞＜その背後に隠れた物事の全容を＞＜一続きに＞＜判断する＞／第二義と第三義から抽出されるスキーマ：直接判断できる物事を基にその先に続く直接判断できない物事を一続きに判断する

第二義は、『類義語辞典』（1972：379）で「おもに未来を正しく推定することにいう」とされている場合に相当する、次の（９）のように用いられるミオトスの意味である。

（９）　政府は１日に公表した最新の経済見通しの中で、06 年の雇用者数増も月平均 17 万 6000 人と予測。<u>今後も米雇用情勢は底堅い動きを示すと楽観的に見通している</u>。（NIKKEI NET）（鷲見（編集中）（15））

このような「物事の成り行き」という時間の経過を伴う物事が判断の対象となる場合を、（１）のようなミトオスとは別の多義的別義（第二義）としている。ただし、次の（10）のような例も存在することから、両義から抽出されるスキーマもある程度単位として定着していると述べている。

（10）　高齢者向け携帯電話が登場し始めたころの論文である。調査データも少ない状況の中で、高齢者の感じていることや将来を見通している。（http://mihama-w3.n-fukushi.ac.jp/semi/~g2002/sotuken4.htm）（鷲見（編集中）（38））

つまり、本稿の考察の中心となるのは、鷲見（編集中）が第三義としたミトオスとミヌクの異同ということになる。ここで注目したいのは、第三義の「＜表面に表れた物事を

基に＞＜その背後に隠れた物事の全容を＞＜一続きに＞＜判断する＞」という記述は、「表面に現れていないこと」と「隠れていること／隠されていること」との関係を示唆している点である。対象が「表面に表れた物事の背後に隠れている」と捉えられた場合に、ミトオスが用いられると言える。では、ミヌクが用いられた場合には、対象はどのように捉えられているのであろうか。本稿では、この観点から分析を進めていく。

## ３　分析

### ３．１　「隠れている」・「奥にある」の曖昧性

本節では、「隠れている」・「奥にある」といった表現が二通りに解釈できることを確認する。まず、「隠れている」について見る。次の例を見ていただきたい。

(11)　虫はいるはずなのに、隠れていて見つからない。

(11) はどのような状況で発話されるだろうか。次の二つの解釈が可能である。

(12)　a.　虫はいるはずのなのに、葉の陰に隠れてしまっていて見つからない
　　b.　虫はいるはずなのに、保護色をして隠れてしまっていて見つからない。

我々が何か具体的存在物について「隠れていて見つからない」という場合、その具体的存在物は（12a）のように「他の存在物の陰（＝背後）に隠れている」場合と、「他の存在物と一体化して隠れている」場合があることがわかる。次の（13）は後者の例である。

(13)　「これ何？」「ハンバーグ」「それは見ればわかる。そうじゃなくて、何のハンバーグ？」「イワシだよ」

我々は「形」や「色」を視覚で捉えることはできるが、「ハンバーグの材料」のような、ハンバーグ全体から取り出しようのないほどに一体化している「形のない構成物」は、存在していても簡単にはわからないのである。ただし、「よく見れば」「鋭敏な視力もって見れば」認知可能な場合もあるという点で、「他の存在物の陰（＝背後）に隠れている」場合とは異なる。

次に、「奥にある」について見る。次の例を見ていただきたい。

(14)　庭の物置の奥に植木鉢がたくさんある。

(14) の具体的存在物「植木鉢（X)」は、「物置（Y）の外部」にあるという解釈も、「物置（Y）の内部にある」という解釈も可能である。前者はXの存在位置である「Yの奥」を「Yとは別の物理的空間」として捉え、話者から見て「XはYの向こう側にある」と解釈する。後者は「Yの奥」を「Yの一部を構成する物理的空間」として捉え、「XはYの内へ深く入ったところにある」と解釈する。この二通りの解釈が可能なのは、基準物「Y（物置)」に「一個の物体」と「他の存在物を内包する容器」の二通りの解釈が可能なためで、基準物Yにそのどちらか一方の解釈しかできない場合には、Xの存在場所も一通りに解釈される。

(15) a. スキーブーツはストーブの奥にある。
b. スキーブーツはクローゼットの奥にある。

「ストーブ」は「他の存在物を内包する容器」という解釈がしにくく、「クローゼット」は「収納スペース」であり、一般的に「向こう側」がない[7)]。そのため、(15a) の「スキーブーツ」の在処は「ストーブの向こう側」、(15b) は「クローゼットの内へ深く入ったところ」と解釈される。このように、「奥にある」は基準物によって、二通りの解釈が可能である。

「隠れている」「奥にある」という表現の二通りの解釈は、並行的である。つまり、(12a) の「隠れている」と（15a）の「奥にある」は、対象を「他の存在物（＝基準物）の背後にある」ものとして捉え、(12b) と（15b）は、対象を「他の存在物（＝基準物）と一体化しているもの（内包されているもの)」と捉えているのである。

以上「具体的存在物」について、「隠れている」・「奥にある」という表現の二通りの解釈を確認したが、これはモノ化された「抽象的物事」に関しても同様だと考えられる。そして、鷲見（編集中）の記述によれば、ミトオスは対象を「他の存在物（＝基準物）の背後にある」ものとして捉えている場合に用いられると言え、ミヌクはもう一方の捉え方、つまり、対象を「他の存在物（＝基準物）と一体化しているもの（内包されているもの)」と捉えているのではないかという仮説が立つ。次節では、この点を検証する。

## 3.2　ミヌク

まず、「我々の物事の捉え方」を説明している、興味深い実例を見ていただきたい。

(16) 確かに人の生き方は自由だと思います。但し、物事を捉えるとき、その物は球であって、表面しか見えません。中はもとより、裏側まで見抜くことはなかなか出来ません。（http://www.h2.dion.ne.jp/~s-kubota/hitonoyasashisa.htm）

「物事は表面・中・裏側が球をなしていて、表面だけが表れている」という物事の捉え方が示されている。その「球」の一部である「球の中」「球の裏側」がミヌク対象となることが確認できる。我々は、直接捉えられないものが何であるかを認識する際に、「球の表面」という直接知覚できるものを対象として判断力を働かせ、直接知覚できない「球の中」「球の裏側」、そして「球全体」が何であるかを判断すると言える。

その全体が「人間」であるとき、我々が直接知覚できるのは、その人の容姿、言動、表情などである。「本性」や「本心」は、それを直接知覚することは普通はできない。しかし、人間の面上にあらわれ得るものであること、そして、はっきりと面上に表れているような場合にはミヌク対象にはならないことが、次の例で確認できる。

(17)「人の見ている私と、私の考えている私と、どちらが持続しているのでしょうか」／「どちらもすぐ途絶えるのじゃ。むりやり思い込んで持続させても、いつかは又途絶えるのじゃ。汽車が走っているあいだ、乗客は止っておる。汽車が止ると、乗客はそこから歩き出さねばならん。走るのも途絶え、休息も途絶える。死は最後の休息じゃそうなが、それだとて、いつまで続くか知れたものではない」／「私を見抜いて下さい」ととうとう私は言った。「私は、お考えのような人間ではありません。私の本心を見抜いて下さい」／和尚は盃を含んで、私をじっと見た。雨に濡れた鹿苑寺の大きな黒い瓦屋根のような沈黙の重みが私の上に在った。私は戦慄した。急に和尚が、世にも晴朗な笑い声を立てたのである。／「見抜く必要はない。みんなお前の面上にあらわれておる」／和尚はそう言った。私は完全に、残る隈なく理解されたと感じた。(『金閣寺』531-532)

「本性」や「本心」は抽象的なものであって、我々が視覚によって知覚できるものではない。しかし、それがその人の容姿、言動といった直接知覚できるものを生み出しているのである。「中身を磨くことによって外見も美しくなる」「その人の生き様は顔に現れる」といった表現は、我々のそのような考え方を反映したものである。我々が「直接知覚することはできないが、人間を作り上げている要素」と考えるものには、次のようなものがあり、それがミヌク対象となる。

(18)　{才能・素質・能力・性格・気質・過去・境遇・生活・職業}　をミヌク
(19)　どら息子であることをミヌク
(20)　収入がどれくらいあるかをミヌク
(21)　リーダーを勤めるには力不足だとミヌク

これらを直接知覚できる「目つき、表情、言動、態度、服装など」によって、判断するのである。以下の例がそれを示している。

(22)　ホームズは、袖口のすりきれている男をみて、「あなたの職業は事務員ですな。袖口がすり切れているのは、あなたが机にすわりっきりでペンを動かしているためです」なんて、わりかしカッコのいいことをいって何事も見抜いてしまう。(『ブンとフン』96)

(22) の二重下線部には、「ホームズ」が男の着ているものの袖口がすり切れているのを見て、「職業は事務員である」と判断したことが示されている。「職業は事務員である」ということも、「男」という人間を作り上げている一つの要素であると言える。また、人間は気持ちや考えをはっきりと言葉に表さなかったり、偽りの気持ちや考えを言葉にしたりすることがあるために、本当の気持ちや考えを直接認知できないことがあり、それがミヌク対象となる。

(23)　{心・本心・内心・心理・心情・心の内側・魂胆・腹の中・底意・野望・意図・意中・思案・気持ち・魂胆・考えていること}　をミヌク
(24)　どんな気持ちでいるかをミヌク
(25)　反逆を企てているとミヌク

我々人間は、気持ちや考えといったものによっても、表情や言動が変わり得る。何を言うかだけではなく、どのように言うかも異なり得る。例えば、褒め言葉であるはずなのに、「褒められていない」と感じるときには、話者の視線や話し方の速度、間の取り方など何かが「褒められていない」ことを感じさせる。気持ちや考えは、その表情や言動を構成する要素であって、直接知覚できる表情や言動に一体化しているために、表情や言動から判断できるのである。そして、(22) の対象が「何事も」と示されているように、直接認知できるものを対象として、それを作り上げている全ての要素、そしてその要素からなる全体を判断し得るのだと言える。次の (26) のように言語化された場合が、その例である。

(26)　{人間・正体・価値}　をミヌク

「直接知覚できる対象」というのは、第一に「視覚によって知覚できるもの」である。以下の例で確認する。

(27)　私は髭も剃らず、汚れた靴を履き、カッターシャツの首筋には垢をつけて、しかも泥のような顔色をしていました。誰が見ても、私という人間の置かれている境遇はひと目で見抜けたことでしょう。(『錦繍』216)

(28)「I am all right.」／と言ったら、顔つきから私がそれほど all right でもないことを見抜いたらしく、／「それなら、ともかくテレビと毛布とバスタオルを貸してあげよう」／と言ってくれた。(『若き数学者のアメリカ』110)

(29)　質屋の親父だったら客の風体を見て、その人の人生までも見抜いちまう。そこから事件に食い込んで行くってのは、なかなか面白い発想ですよ。このドラマで気に入ってる台詞があるんですが「娘が宝石の鑑定士なら、俺は人間の鑑定士だ」ってね。(TBS ホームページ：月曜ミステリー劇場『人情質屋の事件台帳―激安商法殺人事件―』現場リポート)

(27)(28)(29)の二重下線部分は、ミヌクが視覚によって知覚できるものを判断の対象としていることが示されており、その結果「私という人間の置かれている境遇がどのようなものであるか」「私がそれほど all right でもないこと」「客の人生がどのようなものであるか」を導き出していることがわかる。ただし、我々人間の感覚の中で視覚が最も発達しているために、多くの場合に視覚によって知覚できるものを判断の対象とするのであって、判断の拠り所は、視覚情報に限られない。

(30)「アモン！無事だったのね！」「お化粧……臭い。」ルチアに白々しくも抱きつかれ、アモンがその匂いの強さに眉をひそめているシーンが左の写真。色と欲に溺れたルチア先生の変貌を、嗅覚で即刻見抜ぬいたアモンの心情を表した、印象的なシーンです。
(http://my.reset.jp/~yuhto-ishikawa/kagakugijutukyokuhen.html)

(31)　スープを飲んで、｛調味料・化学調味料が使われていること｝を見抜いた。

(32)　演奏を聞いて、｛演奏者・太郎が演奏していること｝を見抜いた。

(33)　生地を触って、｛織糸・100% シルクでないこと｝を見抜いた。

「生活態度がどのように変貌したか」「料理にどのような調味料が使われているか」「演奏者が誰であるか」「生地がどのような糸で織られているか」といったことは、誰にとっても簡単にわかるようなことではない。(30)は嗅覚によって直接知覚できる「匂い」、(31)は味覚によって直接知覚できる「味」、(32)は聴覚によって直接知覚できる「音（演奏）」、(33)は触覚によって直接知覚できる「感触（手触り）」を判断の対象とし、直接知覚できない「生活態度」「調味料」「演奏者」「織糸」を導き出すのである。「生活態度」

「調味料」「演奏者」「織糸」は、「匂い」「味」「音」「感触」を生み出す構成要素であり、分離できないほどに一体化している。同時に、「ルチア先生という人間」「スープ」「演奏」「生地」という全体を構成している。ミヌク対象が、直接知覚できるものに一体化したものであることは、次の例でも確認できる。

(34)　指定確認検査機関や特定行政庁が耐震強度の偽装を見抜けなかったことで、建築確認制度の信用不安を招いている。(NIKKEI NET)

(35)　住宅は、各現場における手作業で、完成した後では、専門家でも手抜きは見抜けません。(NIKKEI NET)

偽装であることがすぐにわかるような「偽装」は偽装ではない。(34) の偽装であるという判断が難しいのは、「構造計算書」という「直接知覚できるもの」のどの部分に「ごまかし」があるか簡単にはわからないためである。(35) も同様に、「完成した住宅」のどの部分に「手抜き作業」があるか簡単にはわからないため、専門家でも判断が難しいのである。つまり、「ごまかし」「手抜き作業」は、直接認知できる「構造計算書」「完成した住宅」という直接知覚できるものの構成要素として、一体化して隠れているのだと言える。さらに、次の例では、直接知覚できるものの中に構成要素が一体化していることが文脈に示されている。

(36)　そうして私はすれちがいざま、その老人の焦点を失ったような空虚な眼差しのうちに、彼の可笑しいほどな狼狽と、私を気づまりにさせずにおかないような彼の不機嫌とを見抜いた。(『風立ちぬ・美しい村』76)

(37)　「こいつはおれ自身が気づかぬようなふりをしていたそんなおれの生の欲求を沈黙の中に見抜いて、それに同情を寄せているように見えてならない。そしてそれが又こうしておれを苦しめ出しているのだ。……おれはどうしてこんなおれの姿をこいつに隠し了せることが出来なかったのだろう？　何んておれは弱いのだろうなあ……」(『風立ちぬ・美しい村』283)

(36) (37) は、それぞれ「老人の空虚な眼差し」「おれの沈黙」を直接知覚し、その中に一体化していてすぐにはわからない「狼狽と不機嫌」「生の欲求」が存在すると判断することが表されている。

では、「一体化していてわかりにくいもの」を、どのようにして判断するのであろうか。以下の例で確認したい。

(38)　やっぱり、生き物って、相手が何を考えてるかとか、相手がどういう質のものかって見抜かないと生きてこれなかったわけで、私たちの脳の中には相手の本質を一発で見抜いちゃうところがある。(NHK ホームページ：プロフェッショナル仕事の流儀・キャスターコラム・モギケンのプロフェッショナル脳・第4回アートディレクター佐藤可士和)

我々人間の脳がそれを可能にしている。つまり、人間に備わった一種の能力である。しかし、万人がそれを等しく有しているわけではなく、その能力の高いものと低いものが存在する。

(39)　信長は、人間の才能を見ぬく点では、ほとんど神にちかいほどの能力をもっていた。(『国盗り物語』2207)

(40)　回教徒ではあっても、宗教上のことでは、トルコ民族は寛容であり、ゲオルギオスはそれを、鋭くも見ぬいていたのであろう。(『コンスタンティノープルの陥落』439)

(39)(40)の「信長」「ゲオルギオス」はその能力が高い。では、その能力の高さは何に起因するのであろうか。

(41)　藤吉郎は、智恵ぶかい男だ。京都に残された自分を将軍や公卿がどうみるかも予知していたし、また彼等に対する信長の意中もよく見ぬいている。(『国盗り物語』2720)

(42)　愛憎の渦に巻きこまれたとき、女の同情や共感は、たやすく皮肉や好奇心に裏返るのである。聡明な紫の上には、そのへんを見抜く力があった。(『新源氏物語』1898)

(43)　この言葉のいいまわし、およそ信長らしからぬ咏歎調だが、武田の諜者たちはそこまで見ぬくほどの頭はない。(『国盗り物語』2463)

「智恵」「聡明さ」「頭」、つまり、「鋭い判断力」である。それは生得的ともいえるような勘や本能であることも、経験によって培われる力であることもある。

(44)　部下の一人々々の心理を読む独得の鋭いカンを持っていたように思う。決してガミガミ部下を叱る人ではなかったが、われわれは心の中をちゃんと見抜かれているような気がして、常に威圧感を受けていた。ちょっと接すれば、並の人物ではない

ということは誰にでもすぐ分る。(『山本五十六』471)

(45)　学生というものは、教授が自分たちに対してどんな感情を持っているかを見抜くことにかけては天才的である。瞬間的に見抜いてしまう不思議な本能を持っている。(『若き数学者のアメリカ』387)

(46)　貴方が素晴らしい人だということは初めからわかっていたんですよ。年老いたおばあちゃんというのはそういったことを見抜くことができるんでね。(『若き数学者のアメリカ』230)

(47)　あなたにはまだ本当の男の価値を見ぬく力はありません。(『友情』200)

(44)(45)は生得的とも言えるような判断力、(46)(47)は経験によって培われる判断力によって、判断することを表している。そして、そのような「鋭い判断力」があれば、「わかりにくいこと」が「はやく」、また、「正確に」わかるのである。

(48)　吟子にはもとの考えている程度のことはすぐ見抜ける。機嫌をとるために可愛い女だと思ってやれば、それでいいのだが、吟子はそうはとれない、小細工を弄するずるい女としかとれない。(『花埋み』604)

(49)　私は、大戸が会ったこともないはずの内藤の思いを正確に見抜いているということに、ほとんど感動といってもよいような驚きを覚えていた。(『一瞬の夏』527)

以上の考察から、ミヌクの意味は次のように記述できる。

ミヌク：＜直接知覚できる物事を対象とし＞＜その内部に一体化していて直接知覚できない構成要素を＞＜鋭い判断力によって＞＜判断する＞

## 3.3　ミトオスとミヌクの共通点・相違点

ミトオスとミヌクの共通点・相違点をまとめる。

ミトオスとミヌクの共通点
　:「隠れていて、直接的に捉えられない物事を判断する」
ミトオスとミヌクの相違点
　:「隠れていて、直接的に捉えられない物事」の捉え方
　ミトオス:「表面に表れた物事の背後に隠れた存在物」として捉える
　ミヌク:「直接的に知覚できる物事と一体化した、その内部に隠れた構成要素」として捉える。

ミトオスとミヌクにこのような違いがあることは、「見通す力のある機械」と「見抜く力のある機械」がそれぞれ異なった性能を持つ機械として解釈されることにも表れている。

(50)　ポケットの中身も見通す、電磁波利用のボディーチェック・スキャナー － 電磁波を使って衣服の中を透視し立体表示するという、その名も 3D ボディー・ホロ・スキャナー。(http://www.lcarsmania.com/news.htm)

(51)　兵庫県篠山市周辺の黒大豆は「丹波の黒大豆」として全国的な知名度がある。ただ最近は種を中国に持ち込んで生育し丹波の黒大豆として販売する例が増えているとの指摘がある。「放射光施設を使えば中国産はほぼ 100％見抜ける」(同センター)という。(NIKKEI NET)

(50) の「見通す力のある 3D ボディー・ホロ・スキャナー」は、「生地に隔てられ、人間の視力では見ることのできないものが、物理的に存在することを見る」機械であり、(51) の「見抜く力のある放射光施設」は、「人間の視力で物理的に存在することは見えても、人間の視力によっては見えない質的なもの、つまり、それがどこで生産されたものであるかを見る」機械（施設）である。この違いからも、ミトオスとミヌクの相違点が検証されたと言えるであろう。

しかし、「抽象的物事」は我々が概念上モノ化しているのであって、客観世界においてモノとして存在しているわけではない。そのため、「隠れていて、直接的に捉えられない物事」を「表面に表れた物事の背後に隠れた存在物」とも、「直接的に知覚できる物事と一体化した、その内部に隠れた構成要素」とも捉えられるとき、ミトオスとミヌクの違いは、あまり感じられなくなる。「心をミトオス／ミヌク」、「真実をミトオス／ミヌク」が入れ替え可能なのは、「心」「真実」をどちらにも捉えることができるからである（例（1）（2））。一方、どちらかの捉え方しかできなければ（あるいは、しにくければ)、入れ替えが不可能になる。「将来」は現在の先にあり、「物事の将来の成り行き」は「現在の物事の状態やそれを取り巻く状況の背後（＝先／向こう側）に続くもの」という捉え方が自然であり、「将来をミトオス」はミヌクに言い換えられない（例（9））。また、「能力」は「直接的に知覚できる物事」と一体化した、その内部に隠れた構成要素」としての捉え方しかできないため、「能力をミヌク」をミトオスに言い換えると、表されることが変わる。

(52)　非常に大きく高度に機能的な官僚組織のようになってしまったトヨタの新車開発システムではヤングマーケットの新車開発はできないと見抜いたのが奥田前社長

で、別会社をつくり若いスタッフだけでWILLやbBなどを開発したそうだ。
（http://www.sound.jp/kokoromis/club/study/iddesign.html）

（53）　奥田会長は、トヨタの新車開発システムではヤングマーケットの新車開発はできないと見通した。

（52）の実例の「できないと見抜く」は、「現在のトヨタの開発能力」が判断されている。開発能力は組織を成り立たせる重要な構成要素である。それを（53）のように「できないと見通す」に言い換えると、「将来的な展望」を判断することが表される。時間的な展望の判断が優先されるのは、「組織と能力」は、「表面に表れたものとその背後に隠れたもの」といった捉え方がしにくいためだと言える。

### ３．４　心はどこに隠れているのか

「心」は具体的存在物ではない。しかし、我々はそれをモノ化することによって、それについて語ることができている。「心」、つまり、「人の思っていることや考えていること」は、よくわからないものである。言語化することは可能だが、「思い」を偽って表すこともできるし、言葉にできない「思い」もある。わかりにくいものであるから、我々はそれを「隠れているもの」として捉えている。表れているものの陰（＝向こう側）に隠れていたり、表れているものの中（＝内部）に隠れていたりする。前者は、「目の向こう側」、つまり、「体の中」にあって見えないという捉え方であり、「思い」は「体の中に存在する『心』という容器の中」「腹の中」、あるいは、「心の底／奥」「腹の底／奥」に存在すると言える。後者は、「表情や言動」を構成する要素として一体化していて見えないという捉え方であり、「思い」は「眼差しの中」「言葉の中」「態度の中」に存在すると言える。

## ４　おわりに

以上、類義関係にあるミトオスとミヌクの意味について、その共通点と相違点を明らかにした。また、我々が「心」といった目に見えないものを、どこに隠れているものとして捉えているかを見た。

ミトオスとミヌクの違いは、対象をいかなるものとして捉えるかの違いである。このことは、本稿の分析対象である両語の違いについてのみならず、類義関係にある動詞の意味の違いを分析する際に、重要な視点になると考えられる。我々は、同じ対象に対して異なった見方をすることができ、一つの具体的存在物は「形」「色」「材質」「用途」「大きな」「重さ」など、さまざまな観点から定義づけられる。「形」も、前から見たときと、後ろから見たとき、上から見たときなど、さまざまに変わる。同様に、抽象的物

事も、さまざまな見方をすることができるはずである。類義語分析は、対象に対する我々の様々な捉え方を浮かび上がらせる手段となるのである。

## 注

１）各種国語辞典では、ミヌクは一つの意味のみが記述されているが、ミトオスは三つ、ないし、四つの意味が記述されている。参照した国語辞典は、『広辞苑』（第五版）、『大辞林』（第二版）、『大辞泉』（増補・新装版）、『岩波国語辞典』（第六版）、『旺文社国語辞典』（第十版）、『新明解国語辞典』（第六版）である。なお、本稿における「各種国語辞典」は、この六冊の国語辞典を指す。

２）多義語ミトオスの意味構造については、鷲見（編集中）を参照のこと。

３）各種国語辞典の見出し語となっていることも、一語としての確立の高さを示している。

４）ミトオス・ミヌク・ミヤブル・ミスカスの四語を記述の対象としている。

５）詳しくは、鷲見（編集中）を参照されたい。

６）「表れている」「隠れている」のが意図的か非意図的かを問わず、「表れた」「隠れた」という記述に統一するとしている。

７）壁をつき破るなどしなければ、「向こう側」に達することができない。

## 引用文献

清野智昭（1990）「ミスカス・ミヌク」東京大学言語学研究室（国広哲弥）（編）『意味分析３』東京大学文学部，27-29.

鷲見幸美（編集中）「ミトオスの意味構造—使用依拠モデルに基づくネットワークの記述」森雄一・米山正明・山田進・西村義樹（編）『ことばのダイナミズム（仮）』　くろしお出版.

辻幸夫（編）（2002）『認知言語学キーワード辞典』研究社.

『類義語辞典』（1972）徳川宗賢・宮島達夫（編）、東京堂出版.

『類義語使い分け辞典』（1998）田忠魁・泉原省二・金相順（編著）、研究社.

『類語大辞典』（2002）柴田武・山田進（編）、講談社.

## 例文出典

１）CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』

２）検索エンジン YAHOO!

３）日経ネット記事検索